

シリーズ
エレクトーンのお仕事
No.60 ●演奏する仕事

エレクトーンプレイヤー、作・編曲家
一枚の絵との出会いが転機に…
地元・佐賀から
心癒される音楽を発信

今月はエレクトーンプレイヤー・久米詔子さんの登場です。一枚の絵との出会いをきっかけに、プレイヤー、作・編曲家、教師、講師として活躍する多忙な彼女、ヴァイタリティあふれる活動ぶりをご紹介します。

久米詔子 (くめのりこ) さん

福岡県で生まれ佐賀県で育つ。4歳からヤマハ音楽教室にて、エレクトーン、ピアノ、創作等音楽全般を学ぶ。第26回エレクトーンフェスティバル・シニア部門全日本大会入賞、第37回西日本新人演奏会作曲部門オーディション合格、出品のほか、コンクール、フェスティバル出場経験多数。2001年11月にオリジナル作品によるCD「クリスマス・プレゼント〜愛おしさのベイ・フォワード〜」を全国リリース。その収録曲がTBS「モーニング娘。新春! LOVEストーリー」の劇伴音楽となる。



どんな仕事?

佐賀県を拠点に音楽講師として稼働する一方、オペラや合唱、声楽の伴奏、日本舞踊やスポーツイベントの音楽プロデュース、またオリジナル楽曲が地元のTV & ラジオ番組のBGMに起用されるなど、多岐にわたって音楽活動を行っている久米詔子さん。一昨年11月には、オリジナル・アルバム「クリスマス・プレゼント〜愛おしさのベイ・フォワード〜」を全国リリース。その多彩な活動は、地元メディアでもたびたび取り上げられている。

週2日は佐賀女子高等学校の門をくぐる。音楽科と保育福祉コースの非常勤講師を勤めるかわら、クラブ活動の指導講師も任されている。同校の看護科生徒の実習先である神戸の病院からハンドベルを寄贈されたことをきっかけに、10年前に発足された「ハンドベル・リンガーズ」だ。老人福祉施設や幼稚園を中心にボランティア演奏

を展開し、毎年クリスマス・シーズンには、佐賀市の中心街で開催される「サガ・ライトファンタジー」のストリート音楽会に出演。久米さんのエレクトーンのソロ演奏のコーナーもある。「3年生にとってはこれが部活最後のステージで、毎回みんな楽しみにしていますし、いい思い出になっているようです。ハンドベルの指導を任せられたときは、私自身が初心者でしたので、湯河原(神奈川県)まで研修に行きました。部員は、慰問先が老人施設や幼稚園なので、保育福祉コースの生徒が中心です。ハンドベルは大きいものになると4キロにもなり、きれいな音を出せるようになるまでには3年はかかるんですが、みんな熱心で、発足した翌年からさまざまな場所で演奏する機会をいただけてきました」

数々のボランティア活動が認められ、一昨年には、佐賀県企業メセナ協議会より平成12年支援団体の表彰も受けた。

一方、音楽プロデュースは、オリン

ピック選手を輩出していることでも知られる同校の新体操部の個人演技の音楽制作を筆頭に、ユニークなところでは、福岡で開催された「国際交流 鯉の会公演〜日本舞踊と留学生」(西川流)というイベントに2度にわたり携わっている。「普段は学校もありますし、自宅でもエレクトーンとピアノを教えていますので、個人の音楽活動、特に遠方に出向くのは、土日や長期休暇に集中してということになります。こうみえて体力には自信があるんですよ。子どもの頃は中学生まで水泳をやっていた、県のジュニア選抜合宿に参加することになって、毎日8千とか1万メートルとか泳いだこともあるんです。練習が嫌で、週1回のピアノのレッスンを逃げ場にしてたような女子だったんですけど(笑)」

地元では、STSサガテレビの情報番組「かちかちワイド」のお天気コーナーをはじめ、TVやラジオのBGMに久米さんのオリジナル楽曲が起用されている。アルバム「クリスマス・プレ

ゼント」にも収録されているその楽曲たちは、あるメルヘン画家との出会いから生まれたものだ。

仕事を始めたきっかけは?

1989年、当時システム講師としても稼働していた久米さんは、オリジナル楽曲「雨上がりの贈り物」(アルバム未収録)でエレクトーンフェスティバルのシニア部門九州大会グランプリ、全日本大会入賞を果たす。その楽曲のモチーフとなったのが、画家・藤田三歩さんの同名メルヘン画であった。「ふらりと立ち寄った福岡の画材店で一枚のポストカードが目にとまり、不思議な巡り合わせを感じたんです。いい曲ができなくて行き詰まっていたんですが、絵を眺めていると、計算したり、変に気合が入ることなく、自分でも驚くくらい自然にメロディーが浮かんできたんです。今でもそうなんです」

一枚の絵との出会いは、久米さんにとって大きな転機となった。「自分の創る曲、奏でる曲で誰かが少しでも幸せになれば」という気持ちがもたらされると同時に、音楽活動の幅も広がっていった。「恩師の森下相代先生が『賞取りレースに燃えるのではなく、将来的に自分の音楽をやるようになりなさい』と常々おっしゃられてたんです。ならば

やりがいと苦勞

EF出場は10年まで、ここまでやったんだという達成感を確立して、次はほかのことをやろうと考えていたんです」

絵との出会いから5年後、久米さんは藤田さんが数年前に他界されていたことを知る。「いつか藤田さんの前で演奏を、そんな想いは叶わぬ夢となってしまったんですが、藤田さんご主人に送った一通の手紙をきっかけに、2度目のリサイタルを開くときに、藤田さんの絵をステージに映し出すことを快諾してくださって、絵をもとに書き上げた曲を披露させていただくことになったんです」

次のリサイタルでは、クリスマス・プレゼントというテーマで、再び藤田さんへの想いを音楽物語として織りあげた。そしてCD制作。「クリスマス・プレゼント」のブックレットには藤田さんの絵と久米さんの詩も載せられている。「藤田さんからいただいたエネルギーを、今度は私がいろんな人たちにプレゼントできたらなあという思いで作らせていただいたアルバムなんです。ところが、地元のマスメディアで取り上げていただいたり、CDショップでは、番組出演の予定が入ると何日も前から告知してくださったり、藤田さん縁の方



「混声合唱団コールF.L.C. クリスマスコンサート」久留米聖マリア病院内礼拝堂にて。ドイツのポッシュ社のパイプオルガンで伴奏とソロ演奏をした。



STS サガテレビ「かちかちワイド」に生出演、CDに収録の「パルンドリーム」「パブルレイン」を演奏した。



FM佐賀「週末はざっくばらん」並原瑞璃子のゲスト対談に出演。



1995年に佐賀市文化会館で行われた「第2回久米詔子リサイタル」より。

がお電話をくださったり、逆に私のほうが、皆さんからたくさんのお礼をいただいている感じがします。(昨年)12月に海津幸子さんたちと東京のステージをご一緒できたのも、このCDがきっかけでしたし」

昨年お正月には、CDから4曲がTBS系のドラマ「モーニング娘。新春! LOVEストーリー」(ビデオ&DVD発売中)の安部なつみ主演「時をかける少女」の劇伴音楽として起用された。「選曲効果会社に勤める旧友がドラマの音響効果の仕事をしていてから、監督の方に気に入っていただけて使われることになったんです。CDのことは共通の友人を通じて知ったそうで、何年も音信不通でしたから、連絡をもらったときは何がなんだか、ただびっくりでした」

久米さんのお話をうかがっていると、夢を実現させるには、前向きに一生懸命頑張ること、ひとつひとつの出会いを大切にすることだと思ひ知らされる。「何か行動を起こして、それが無駄になるようなことはないんだなって思うんです。ですから体力の続く限りは、ためらうことなく、いろんなことにチャレンジしていきたいと思っています。大都市じゃないと、やりたいことができないんじゃないかと思っていた時期もありましたが、今はどこに住んでいようと、頑張っていれば同じだから、逆に地元で根付いて活動しているから、マスメディアに取り上げていただいたり、いろんな方から応援や協力もいただけるわけですから、今後も佐賀という土地から、心が癒される音楽を発信していきたいと思っています」

やってみたいという人へアドバイス

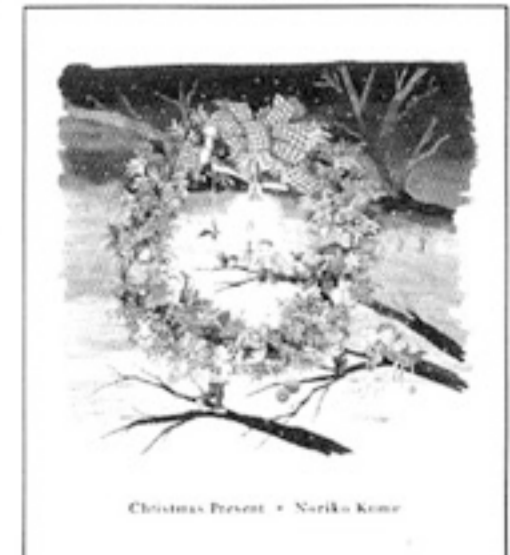
「昔、恩師から音楽の仕事をするなら

エレクトーンは弾けて当然、音楽以外のことも勉強する必要があるって言われたんですが、確かにその通りなんです。仕事で関わる人たちは、音楽の専門家以外の方のほうがむしろ多く、音楽以外の知識がないと要求に応えられないってこともありますから、いろんなことに興味を持つ必要があると思います」

また音楽以外で得意分野があれば、それがどこでどんな音楽の仕事に結び付くかわからない。久米さんは、短大で幼児教育を専攻し、保育士の資格を持っていたことで、佐賀女子高等学校の保育福祉コースの講師という仕事に巡り合った。

「保育や福祉の現場では、子どもたちが楽しく歌えたり、お遊戯できるように演奏を薦めることが何より大切ですから、音楽科の生徒とは指導も異なってくるんですね。音楽一辺倒でいたら、どう指導していいかわからなかったでしょうし、またこのコースで音楽を教えることもなかったかもしれないですね」 (文・大和歌子)

「クリスマス・プレゼント〜愛おしさのベイ・フォワード〜」
FPNK-2001 / 2,500円 (税込み)
発売: Fantastic Prism ☎ 0952-22-9428



久米詔子ホームページ「Fantastic Prism」
http://www.fantasio-prism.com